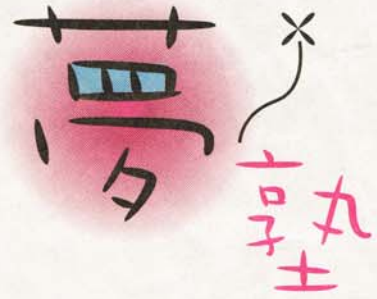





足に合った革靴自作



斉藤敏広さん

 **3**つのアドバイス



さいとう・としひろ 38歳で商社を退社し、靴メーカーで修業した後に独立。1998年には靴のフルオーダーの店「靴の自作工房hiro」を開き、2000年から靴作りを教える。http://www.e-kutsuya.com/

✓1 自分の足を知ろう

人間の足の形は千差万別。足底の長さだけしか分からなければ、フィットする靴は作れない。靴屋や工房などを訪ねて調べてもらおう。自分の足を知れば、なぜこれまでの靴が合わなかったのか、痛かったのか分かるはず。

✓2 合った教室探して

経験のない人がいきなり靴を作ろうとしても難しい。自分の作りたい靴に合った教室を探すべき。手軽に体験できる場所から本格的に学べる場所まで様々ある。足にぴたりと合う靴を作りたいなら、自分の足をもとに靴型を作れる教室を選ぼう。

✓3 中底作りも気を配り

靴型を作り、靴のデザインが決まったら製作に入るが、その際には中底作りにも気を配ろう。いくら靴型が足の形通りにできても、中底が平らだったらだめ。靴型と中底が一体となるように気をつける。X脚やO脚の調整も中底でできる。

読書新聞 Y&Y日曜版 2007年(平成19年)7月8日(日曜日)

痛くない靴なら美しい姿勢



1面続き

「自分の足に合った靴がほしいだけならば、オーダーしたほうがいい」と、「靴の自作工房hiro」を開く斉藤敏広さん(60)は言う。

いい靴を作るために、まず重要なのは、自分の足の特徴を知ることだ。多くの人は靴を買う際、足のサイズが23センチならその大き目で靴を探してしまうが、斉藤さんいわく、「大切なのは、かかとから親指の付け根までの距離」だという。「歩く時に靴底が曲がる位置

と、実際に足裏が曲がる位置とがずれていると、足が前にすべってしまう」というのだ。つまり、この両者を合わせることで、足に合う靴作りの第一歩になるという。もちろんこれは、既製の靴を買う場合にもポイントとなる。

足の特徴を把握したら、次は靴型に反映させる作業に入る。斉藤さんの工房の場合、基本となる靴型にロウを盛りつけて成形していく。足の幅から甲の厚み、かかとの形、さらに骨の出っ張りまで。「特にパンプスは、ひも靴などと違って足を覆う部分が少なく脱げやすいので、眼鏡や入れ歯のようにオーダーしたり、自分で作ったりするのが好ましい」と斉藤さん。

こういった技術を学ぶには、教室などに通うのが一般的だ。斉藤さんの工房では、週1回の講習を4か月(月謝1万5000円)受けることで、だいたいパンプス1足を作れる。



「靴の自作工房hiro」には、仕事を終えてから通う人も少なくなく、夜遅くまで作業が続けられている

初心者でも靴作りを体験できる教室や工房

<p>靴の自作工房hiro 東京都墨田区立花3-22-1 ☎03-5247-5123</p>	<p>関口善大靴工房 東京都世田谷区代沢5-36-8-2F ☎03-3487-2430</p>
<p>靴工房nico. 東京都杉並区清水1-4-2 ☎03-3398-2438</p>	<p>スナッグ・シュー・スクール 東京都墨田区東駒形4-22-9-201 ☎03-3625-5528</p>
<p>空ONE LOVE 東京都国立市北1-1-15 ハイムNORTH1-B1 ☎042-513-7973</p>	<p>靴デザイン・クラフトスクール 名古屋市西区則武新町1-19-11 ☎052-571-8912</p>